

2016年10月実績概要（メモ）

（2016. 11. 17）

定修もほぼ終了に近づき生産は一部の品目を除き多くが前月比増加。

1. 生産動向

イ) エチレン 519,500トン

前月比 +10.5% (+49,200トン)
前年同月比 ▲11.6% (▲68,400トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	—
定修要因等	+ 8.1 %	▲ 8.0 %
能力増減	—	▲ 6.2 %
稼働率変動	▲ 0.9 %	+ 2.6 %
生産増減率	+10.5 %	▲11.6 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月96.2%→当月95.5%←前年同月93.1%
定修プラント：前月2社2プラント→当月2社2プラント←前年同月なし
2016年1～10月累計生産量 5,141.6千トン 前年同期比▲9.6%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増と定修規模差からLD、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、AN、ベンゼンなどの12品目がプラス。HD、MMAモノマー、SBR、BRなどの5品目は稼働率要因や定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等からLD、HD、PP、SM、EO、EG、AN、SBR、BR、トルエンなどの11品目がマイナス。PS、塩ビ樹脂、キシレンなどの6品目は定修規模差等からプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の増加と定修規模差からLD、PP、PSでプラス。HDは主として稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、HD、PPはマイナス。PSは定修規模が縮小したこともあり大幅なプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、LDではフィルム分野、HDはこれまで低調だったパイプ分野の出荷が増加しプラスとなった。また、PSでは包装分野、雑貨・産業分野の出荷増加からプラス。PPは射出成形分野における出荷減少からマイナスとなった。

前年比では、前年は輸入品の減少や原料動向から出荷が高めの状況にあった。当年は定修が続いていることも加わりLD、HD、PSではマイナスとなった。PPは射出成形分野の出荷が増加したことなどから微増となった。

ハ) 輸出

出荷全体の傾向が国内向けへの傾注が続いており、輸出は前月比でLD、PSは大幅マイナス。HD、PPはプラスとなった。

前年比では、HD、PSはプラスとなったが、LD、PPは引き続きマイナスが継続している。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してLD、HD、PPで減少、PSは若干の増加となった。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDは横ばい、HD、PP低下、PSはやや上昇した。在庫水準としてはLD、PSはほぼ適正、HD、PPは幾分タイト気味となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		9月末	10月末
LD	▲16,700	2.7	2.7
HD	▲6,500	2.9	2.5
PP	▲3,600	2.7	2.5
PS	+6,700	1.3	1.4